

# も・み・じ

108



発行：放送大学福島学習センター  
機関誌

〒963-8025

郡山市桑野1丁目22-21

TEL 024-921-7471

いわきサテライトスペース

TEL 0246-22-7318

<https://www.ouj.ac.jp>

## —もみじの由来—

福島学習センターの建物は、もみじ館と呼ばれ、郡山女子大学発祥の地である。青葉の頃、紅葉の時期それぞれに美しい色どりが心をなぐさめる。当センター機関誌の名称としてまことにふさわしい。

重要!

## お知らせ



◆面接授業や学習センター等の重要な情報については、システムWAKABA及び福島学習センターウェブサイトに掲載いたしますので、必ず週に1度はチェックするようにしてください。

【システムWAKABA】

<https://www.wakaba.ouj.ac.jp/portal/>

【福島学習センターウェブサイト】

<https://www.sc.ouj.ac.jp/center/fukushima/>

### ◆年末年始及び月曜日・祝日以外の学習センター閉所日について

(2023年度から、いわきサテライトスペースの閉所日は祝日等以外、月・火曜日となりました)

12月29日(日)～1月5日(日)・1月14日(火)

あわせて『利用の手引き』(福島学習センターウェブサイトのトップページからダウンロードできます)の日程表もご確認ください。

### ◆図書・視聴学習室からのお知らせ

単位認定試験の実施に伴い、1月7日(火)～1月26日(日)まで図書の館外貸出を停止します。

### ◆次学期に向けての手続きについて

- ・次学期も学籍が続く方は、**2月13日(木)～2月27日(木)【必着】**の期間内に科目登録申請票(システムWAKABA申請可 **2月13日(木)～2月28日(金)**)を郵送してください。
- ・今学期学籍が切れる方で次学期も学習を継続される方、再試験を受ける方は、**2月28日(金)【第1回】、3月11日(火)【第2回】【必着】**まで継続入学出願票(システムWAKABA継続入学申請から出願可)または一般の学生募集要項の出願票を郵送してください。
- ・上記の手続きについては、学生募集要項及び学生生活の葉も、必ずご確認ください。

### ◆機関誌『もみじ』及び『利用の手引き』の配布方法について

配布方法については、福島学習センターウェブサイト内の「機関誌紹介」及び「各種お手続き」(下記URL)に配布方法が掲載されています。配布希望者の方はウェブサイトを参照の上、お手続きをしてください。

<https://www.sc.ouj.ac.jp/center/fukushima/about/magazine.html>

<https://www.sc.ouj.ac.jp/center/fukushima/procedure/>



## ネロのお祖父さんと水島を知っていますか

高田 英和

「ウクライナ戦争」の終わりは、いつなのでしょう。今もまだ、続いています。

「戦争」に関して言えば、イギリスの歴史学者のダニエル・ピック (Daniel Pick) は『戦争の機械』(原題: *War Machine: the Rationalisation of Slaughter in the Modern Age*, 出版年: 1993年) という本において、その副題——近代における殺戮の合理化——が示しているように、近代の戦争においては人間の死(虐殺)は正当化されてきたことを批判的に指摘しています。

文学と戦争に観点をしぼってみると、たとえば、イギリス文学には、ウィーダの『フランダースの犬』(1872年)という児童文学があり(日本においても1970年代にアニメーションが放映され多くの人びとの記憶に残っていることでしょう)、その登場人物の一人、ネロのお祖父さんは、ベルギー独立運動(戦争)にかかわりますが、そこで負傷し身体(足)に障がいを被り、そのような状態でその後の人生を過ごすこととなります。(ちなみに、お祖父さんは、最後は寝たきりの状態で臨終を迎えます。)その生活は(みなさんもお存知のように)幼いネロと年老いたパトラッシュの力を借りて日々牛乳を集荷し細々と暮らすという非常に貧しいものです。国のために戦った結果が、この始末です。何とも言えません。



(“Nello and Patrasche” from Ouida, *A Dog of Flanders and Other Stories*, Chapman and Hall, 1872, [between 14-15].)

あるいは、日本を代表する児童文学で1948年に出版された『ビルマの豎琴』(これも二回ほど映画化され人気を博しみなさんもよく知っているでしょう)を書いた作者の竹山道雄は、この「あとがき」において、教え子たちが「学徒出陣」により戦場に送り出されたことについて言及しています。戦争の意義は何に何処にあるのかと、ある意味、この小説の主人公の水島上等兵は言っているのかもしれませんが。言い換えれば、「近代化」することの弊害であると断言しても良いでしょう。水島がビルマに居残るというのも、きっと、このことと関係しているにちがひありません。



(「水島上等兵」出典: 竹山道雄『ビルマの豎琴』中央公論社, 1948年, 表紙.)

人が、社会が、国が豊かになるとは、どういうことなのでしょう。われわれは今一度深く考察すべきであると、わたしはとらえています。



# 令和6年度第1学期 卒業証書・学位記授与式

令和6年9月28日(土)福島学習センター、9月29日(日)いわきサテライトスペースにて卒業証書・学位記授与式が行われ、卒業を迎えられた21名のうち11名の出席がありました。

学歌斉唱のあと、中田所長から一人ひとりに卒業証書・学位記が手渡され、お祝いの式辞がありました。

続いて卒業生を代表して、福島学習センターでは小野利之さん、いわきサテライトスペースでは伊藤純子さんが「御礼のことば」を述べました。

ご卒業おめでとうございます



※延べ卒業生数 大学院61名 教養学部1,065名  
(いわきサテライトスペース卒業生数含む)

## 令和6年度第2学期 入学者の集い

卒業証書・学位記授与式に引き続き、令和6年度第2学期入学者の集いとオリエンテーションが行われました。中田所長の挨拶の後、オリエンテーションでは放送授業、面接授業、オンライン授業、施設の利用方法、客員教員ゼミや所長カフェ等の説明が行われ、新入生の皆さんは熱心に聞いておられました(写真はいわきサテライトスペース)。



# 御礼のことば

福島学習センター所属 小野 利之

学位記授与式にあたり、僭越ではございますが、卒業生を代表して一言お礼の言葉を述べさせていただきます。

本日は、私たち卒業生のために学位記授与式を開催していただき、誠にありがとうございました。

また、学習センター所長様はじめ事務局の皆様、面接授業やゼミの講師の先生方には、充実した学びの場を与えていただき、深く感謝を申し上げます。

私は、実は、現役で働いていた頃から、退職後は放送大学で学びたいと考えておりました。

ただ、私の放送大学に入学した動機は、それほど強いものではなく、退職後の生活を充実させたいという思いであり、学びを通して、生活の中に一定のリズムと緊張感を取り入れることができればいいなと、漠然と考えておりました。

そこで、退職と同時に、平成30年に放送大学に入学をいたしました。

コースは、人文学系統の学問について、専門の先生方から講義を受けたいと思い、「人間と文化」コースを選びましたが、テキストには膨大な内容が盛り込まれており、理解し覚えるのに、60代後半の私の頭ではなかなかの苦労でもありました。

放送大学の良さは、いろいろなコースの授業を自由に受けることができる点にもあると思いますが、私も心理学の授業をいくつか受けて、その一端を垣間見ることができ、次のステップにつなげることができました。

現在、私の本棚には30冊以上の放送大学の

テキストが並んでいますが、開いてみるとどのページにも赤や黄色の傍線が引かれています。

文学や歴史、美術、音楽など、多様な専門分野にわたる内容を、6年間の学習の中で、一度は自分の頭の中に吸収したものだ考えると、放送大学で学べたものの大きさには感慨深いものがあります。

さらに、面接授業は楽しく印象深いものでした。いろいろな立場や年代の人たちといっしょに学ぶことで良い刺激を受けることができました。日本近代文学やふくしまの地域史、音楽療法、アグロエコロジーなどの面接授業は強く印象に残っており、学ぶ楽しさを肌で感じることができました。

また、単位認定試験の際に、問題用紙を前に開始の合図を待っている時の緊張感は数十年ぶりに味わうものでしたが、心地よく若返ったような感覚を覚えました。

最初に申し上げたように、私が放送大学に入学した動機は、強いものではなく、漠然と考える程度のものでした。

しかし、今、普段は午前中に畑で野菜づくりに汗を流し、午後はパソコンに向かい気を引き締めて放送授業を聴くという充実した生活を続けられています。

放送大学がなければ、このような生活を送ることはできなかったと思います。

改めて感謝を申し上げますとともに、放送大学の益々のご発展をお祈りして、御礼の言葉といたします。

令和6年9月28日

いわきサテライトスペース所属 伊藤 純子

風に揺れるコスモスに秋の深まりを感じる季節となりました。

本日は私ども卒業生のために「卒業証書・学位記授与式」を挙げていただき、心より感謝申し上げます。

私は子どもが大学入学したタイミングで、私自身の長年の夢であった大学で勉強してみたい、知識を深めたいという思いを実現しようと放送大学に入学いたしました。いろいろな困難もありましたが、「自分のペースで一つ一つ学び続けて還暦までには卒業する」という目標をたて取り組んで参りました。大学生生活は初めてのことでありましたが、通信指導のみならず、面接授業でも素晴らしい先生方の講義を受けることができたことは、私の日常が豊かになり視野が広がっていったことにつながったと感じております。ゼミにも参加し、学友と意見を交わし共に学び共有する喜びも体験することができました。単位試験は年齢による眼精疲労と記憶力低下との戦いではあり

ましたが終わった時の達成感と解放感は日々の生活に張りをもたらせてくれました。そして面接授業を通して様々な年代の学友の方々とご一緒してお話し交流できたことは、私にとっての大切な気付きとなりこれからの人生の刺激にもなりました。

私はまもなく還暦をむかえますが、この放送大学での学びをどう今後の人生に生かしていくかじっくり考えながらも、さらに知識を深め人生を楽しんで生涯学習を進めていこうと思います。そのために再入学し新たな学びを継続していく所存でございます。

最後になりましたが、いつもすばらしい環境で支えてくださいました諸先生方、学習センターとサテライトスペースの職員の皆様から心から御礼申し上げます。

放送大学の益々のご発展をお祈りいたしまして御礼のことばといたします。

令和6年9月29日



# 公開講演会のお知らせ



講師／山田 紀浩 氏  
放送大学客員教授  
東日本国際大学経済経営学部教授

日時／2025(令和7年)2/1<sup>土</sup>  
■開場12:30 ■開演13:00~14:30  
会場／いわき市社会福祉センター  
演題／ソウルの都市計画と儒学思想

講義概要

現在の韓国の首都ソウルの原型は1392年の朝鮮王朝樹立の時に、それ以前の高麗王朝の首都であった開城から遷都した場所からです。もともとは約18.6kmの石の城壁で囲まれた所であり、漢陽(のちに漢城)と呼ばれました。その城壁の名残が東大門や南大門です。現在では漢江を中心に江南地区と江北地区に分け1千万人以上の人が住んでいますが、本来は約20kmの城壁に囲まれた儒学思想で作られた区域でした。



講師／高田 英和 氏  
放送大学客員教授  
福島大学人間発達文化学類教授

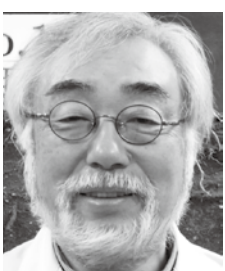
日時／2025(令和7年)2/2<sup>日</sup>  
■開場12:30 ■開演13:00~14:30  
会場／放送大学福島学習センター講義室  
演題／社会と文化を読む

講義概要

戦後(第二次世界大戦以後)の世界は、アメリカがその覇権を握っていることは、ある意味、周知の事柄になっています。われわれの日本も常にそれに追随していて、今に至っています。たとえば、言語(languages)を例にとっても英語(English)を身につけることの重要性に、このことは表れています。講演会では英語をキーワードにして、アメリカと日本両国の関係性を見ていくことにします。扱われる題材は、文学や映画などになります。

オープンキャンパスも同時開催

要申込 12:30~13:00  
放送大学内容説明・施設見学など



講師／會田 容弘 氏  
放送大学客員教授  
郡山女子大学短期大学部教授

日時／2025(令和7年)2/2<sup>日</sup>  
■開場14:45 ■開演15:00~16:30  
会場／放送大学福島学習センター講義室  
演題／考古学からみた環境変化と人類進化

講義概要

21世紀の人類は、持続可能な循環型社会を模索し始めた。人類は1000万年の地球環境の変化の中で進化を遂げてきた。5万年前以降地球上に生き延びたのが我々ホモ・サピエンスである。その進化の過程と生活領域の拡大の中で、様々な環境変化や災害を経験してきた。先史時代の人類史と環境史はようやくわかり始めてきた。その研究成果を紹介したい。

## 定員・お申込み・お問い合わせ

### ■各先着35名(要予約)

※各回とも定員になり次第終了します。お早めにお申込みください。

### ■事前電話予約

開催地別に電話でお申込みください。

- ・いわき いわきサテライトスペース
- ・郡山 福島学習センター



主催：放送大学福島学習センター 後援：福島県教育委員会・郡山市教育委員会・いわき市教育委員会

# 学生サークル紹介

## 会津学知会



会津学知会 庄司 利則

会津学知会は、在籍生・卒業生・同窓会及び拡大関係者の皆様が会員であり、活動取組みの目的を「放送大学を通して、より豊かな人生を送ると共に生涯学習の喜びと社会奉仕の精神を養い、情報交換等により会員相互の学問の向上と親睦を図ること」としております。年会費は、1,000円です。

ユニークな取組みでは、1人1テーマ話題提供(発表は年4回定例会×2人)があり、発表者の思う内容を30分程プレゼンテーションした後、全員で自由闊達に意見交換し、知的な多様性について見聞を深めています。なかなか面白いですよ。

次に、息長く継続している活動(福島同窓会と共催)について紹介します。

- ①9月の浜通り3.11大震災復興フィールドワーク(本年：大熊町・双葉町・浪江町の震災関連施設現地調査)。これまでの実績では、震災翌年から3回、10年経過後3回実施し、今後も復興の様子を継続確認予定です。
- ②10月の歴史散策(本年：鶴ヶ城本丸・わが国に唯一現存する日本天文遺産の日新館天文台跡散策)。散策は、市の歴史ボランティアが案内し、歴史について、タテからヨコから自分の目と足で訪ねる楽しさがあり毎回好評です。
- ③11月のミニ講演会(本年：テーマは会津のおけいの生き方。17歳で夢と希望を抱き日本で初めて米国本土女性移民となり、19歳に儂く米国で逝去するまでのしなやかに強く生きた物語)。これまでの講演では、一般市民も参加の下で、演題として、本県の偉人である野口英世や山本八重の生き方・3.11大震災を伝える意義・伝統文化の紹介等、幅広く行っています。講師は、テーマ毎に放送大学の先生・市の地域教育コーディネーター・県立博物館学芸員の方々にお越し、難しいことも易しく楽しくお聞きできる良い機会となっています。

皆様、会津学知会HPでの紹介もご覧いただき是非仲間になりませんか。

### 活動の様子①

9月浜通り3.11大震災復興フィールドワーク：いわき薄磯海岸



遠景は塩屋埼灯台

### 活動の様子②

10月歴史散策：明治初頭の戊辰戦争時における会津藩滝沢本陣



本陣は茅葺

### 活動の様子③

11月講演会：年末の第九演奏ドイツ兵捕虜と会津の関係



会場は会津稽古堂